

跋

「桂林学叢」創刊第一号を漸く発行し、年来の抱負の一部が茲に結実したことは、悦びに堪えない。

抑々、桂林同学会は、本能寺貫首松井日宏猥下が宗務総監当時、教義を研究する学僧に自由に研究させる為に、四大本山の協護の下に運営され、開宗七百年記念に「信仰のしるべ」を桂林同学会員が編纂し、相当活潑に会合を続けていたが、松井猥下が総監退任と共に一時中絶されたが、一昨昭和三十三年の早春、松井猥下から復活の相談を受け、その年の夏、復活第一次研究会を苅谷、株橋両先生を中心として、大本山光長寺の協護の下に開催し、昨夏は大本山本興寺に於て第二次研究会並びに研究発表会を開催することが出来た。昨夏の研究発表者桃井観城、芹沢泰寛、成瀬英俊、川口善教の四師の研究発表論文及び苅谷先生が第二次研究会の講義をテープで収録しこれを川口師が筆録した原稿を本書に掲載したのである。桂林同学会は、本年は本能寺、明年は鷲山寺と四大本山を順次会場とし四大本山の協護の下に運営され、会員中から四人が毎年順次研究発表を行うことになっている。桂林同学会は、苅谷、株橋両先生を中心として、年毎に熾烈なる研究を続けることであらうと期待している。

仏宝、法宝は必ず僧に依て住す。譬えば薪なければ火無く、大地なければ草木生ずべからず。仏法有りとも云うも僧有りて習い伝えずんば正法像法二千年過ぎて末法へも伝わるべからず（四恩鈔）

その研鑽の成果は、本書が号を逐うに伴つて愈々充実し、顕現されるであらうと思つてゐる。その時こそ、桂林同学会の存続が明確に価値づけられると思う。私は、桂林同学会各師が、「行学二道を励み候べし」の祖意に恪遵し、ひたむきの研鑽を希つて俟まない。

本書刊行に当つて、苜谷、株橋両先生の校閲の法勞を謝し、松井孝純、豊島正典両師の編集・校正等の勞を謝す。又、本書表紙の題字は、桂林同学会創設の由縁に基いて大本山本能寺貫首松井日宏殿下に特にお願ひした。

なお、本書刊行に当つては、布教教学振興会の淨資によるものであつて、宗内師檀の法勞に感謝する次第である。

昭和三十五年四月二十八日

立教開宗第七百八年の聖日

宗務総長 福 島 泰 信